

平成 30 年度植物友の会活動記録

久保晴盛、田川朋男、高井敦雄

はじめに

植物友の会は、植物に興味を持つ一般から募集した人達の集まりで、植物公園を活動の場として植物愛好者が集い、植物・園芸に関する知識・技術の向上を図り、自然保護の心を育てることを目的に、昭和54年10月に設立された会である。

平成31年1月現在、会員数は個人会員が103(△7)人、家族会員が11組26人(△7)、企業等の賛助会員が8団体である。()内は昨年度同月からの増減会員数、△は減。

活動

植物友の会では、年6回の例会、年3回の野外観察会、年2回の講習会、友の会作品展、会誌「はなの輪」の発行などを主な活動として行っている。また、園内ボランティア(管理ボランティア)、部会活動(山草部会)などは年間を通して活動している。

(1) 例会 (表1)

2ヶ月に1回の定例会を展示資料館2階講堂で行っている。季節の園芸作業、植物に関する講話や園内の植物ガイドなどを職員が持ち回りで行うほか、第2回から第4回例会では藤井運営委員による見ごろの園内観察を行った。例会の前後には運営委員会を開催し、友の会の活動方針などを随時協議した。

表1. 例会の内容

第1回 5月13日 参加者21名	・植物見どころ観察会 大温室～バラ園～ロックガーデン ～ログガーデン
第2回 7月8日	・講演：オーストラリアへの旅 ・園芸作業 ・園内観察 フクシアの夏越し スイレン鉢で楽しむ熱帯性スイレン
第3回 9月16日 参加者27名	・園芸作業 ・園内観察 ウツボカズラの取り木 タンポポ
第4回 11月18日	・園芸作業 ・園内観察(紅葉) 観葉ペゴニアのカップ栽培 カンアオイ
第5回 1月13日 参加者34名	・講演：身になる実の話、ネタになる種の話 ・園内観察会(大温室)

(2) 講習会

植物クラフトや寄せ植えづくりなどを毎年2回開催している。第1回講習会は8月25日(土)に「木の実でバオバブを作ろう」と題して開催した。世話役は藤井運営委員。参加者は2名。松ぼっくりやドングリなどを用いて、バオバブをイメージしたクラフトを作成した。季節の花さんぽと同日に開催したが、参加は低調であった。また、第2回の講習会を11月に予定していたが、7月の水害に伴い学校等からのクラフト体験の引き合いが多く、講師に友の会の講習会を行う余裕がないことから、中止となった。

来年度は会員の希望を取り入れながら外部への講師依頼を含めて、より魅力のある内容を検討したい。

なお、友の会会員がより頻繁に植物公園に来園できるきっかけを作るために、講習会「季節の花さんぽ」(2週に1回の園内ガイド)等に参加できるようにしている。季節の花さんぽへの参加状況については、ガイドボランティア活動記録(平成30年度)にまとめてあるので、そちらを参照されたい。

(3) 観察会 (表2)

年2回春と秋に、広島大学の教員を講師として迎え、県内外の山野の植物を観察している。また、平成23年度からは第3回野外観察会(現地集合・解散)を開催している。今年度の第1回は昨年度にリニューアルしたときわ公園(ときわミュージアム 世界を旅する植物館)とやまぐちフラワーランドの視察を行った。通常の野外観察会とは趣向が違うものの、他の植物園を知るきっかけになったとして好評であった。第2回の観察会は山口県岩国市の寂地峡(五竜の滝周辺)で溪谷沿いの植物観察を行い、ヤマグルマなどを観察した。第3回の観察会では、広島駅新幹線口から見える二葉山に登り、シリブカガシ林の成り立ちや植生などについて勉強した。

表2. 野外観察会の開催地と場所

第1回 7月15日 参加者19名	・ときわ公園(山口県宇部市) ・やまぐちフラワーランド(同柳井市) 講師：各園の職員・コンシェルジュ
第2回 10月21日 参加者13名	・寂地峡(山口県岩国市) 講師：山口 富美夫 教授
第3回 12月2日 参加者16名	・二葉山(広島市東区) 講師：吉野由紀夫 さん

(4) 展示会

年1回秋に、会員が普段自宅で楽しんでいる鉢物（山草部会員等）や写真、草木染めや木の実のクラフトなどを出品していただき、友の会作品展として開催している。今年度の会期は9月8日（土）～16日（日）の9日間であった。山草部会を中心に出品した山野草（83点）、園内の四季を記録した写真（220枚）や木の実で作ったクラフト、草木染など（計72点）多彩な作品が出品された（出品者10名、出品点数375点）。

(5) 園内ボランティア（表3）

管理ボランティア立ち上げ時は、植物公園職員の補助として活動していたが、次第に会員の自主的な活動が中心となり、ここ数年は藤井運営委員が主導している。第1・第3火曜日を定期活動日として設けており、『友の会花壇管理やクラフト活動の準備』などを主に行っている。また、栽培・展示課から要請があった場合のみ、そちらの作業に従事することとしている。今年度は「サクラソウ展」「カスケードのハンギングバスケット制作」「クリスマス飾るフラワー展」「ベゴニア温室周りのコンテナ植え付け作業」などに協力いただいた。

表3. 平成30年度管理ボランティア活動記録

活動月	活動内容	人数
4月	竹筒づくり、サクラソウ展、植栽管理（進化園ほか）、はなの輪発送、花さんぽ	49
5月	みどりの日クラフト、植栽管理（ベゴニア・アジサイ）、ハンギングバスケット作成、花さんぽ	49
6月	植栽管理（アジサイ）、はなの輪発送、花さんぽ	29
7月	植栽管理（アジサイ・大温室）、はなの輪発送、花さんぽ	22
8月	植栽管理（大温室）、グリーンフェア会議、花さんぽ	19
9月	植栽管理（アジサイ）、ハンギングバスケット作成、グリーンフェアコンテナづくり、キャンドル着火、花さんぽ	33
10月	植栽管理（ベゴニア）、グリーンフェアクラフト、花さんぽ	50
11月	開園記念日クラフト、ハンギング製作、クリスマス展飾付、はなの輪発送、花さんぽ	36
12月	花さんぽ	34

クラフト体験については例年同様に、小学校の自然体験学習（松ぼっくりを使った毛糸の羊やクリスマスツリーづくりなど）、秋のグリーンフェアや開園記念日等のイベント（友の会コーナー：クラフト講習会）に延べ37名の会員に協力いただいた（表4）。

表4. クラフト体験（小学校の自然体験学習）

10月3日	広島三育学園小学校（53名）
10月24日	石内小学校（47名）

園内ボランティア活動については、現在見直しを行っており、来年度以降は、クラフト製作は休止することとなった。ボランティアの活動日についても定期日を設けず月1回を目安に、立ち上げ当初の想定である「園内の植物栽培管理の補助」を基本としたボランティア活動として実施していく予定である。

(6) 会誌の発行（表5）

平成25年度より、各号300部印刷することとしており、過剰在庫などを関係団体、新入会員へ分譲した。印刷費が年々増加しており、経費の縮減が課題であった。そこで、園内で編集を行い、印刷のみを外注する発行形態の変更を検討している。これまで、B5版16ページでの冊子として発行していたものを、A4版8ページ（観音開き）のリーフレットに移行し、あわせて、会員向けのニュースレターを例会毎に発行する計画を進めている。試行版として平成31年1月にはなの輪第158号を発行した。

今後は、会誌「はなの輪」の内容を植物公園ウェブページで随時公開して、会員の利便性を高めたい。

表5. 会誌「はなの輪の発行」

平成30年6月	2018通巻155号（夏号）
平成30年8月	2018通巻156号（秋号）
平成30年10月	2018通巻157号（冬号）
平成31年1月	2019通巻158号（1-3月号）

(7) 部会

友の会部会活動は現在山草部会の一部会のみである。山草部会は、年2回の野外観察会や5月の例会に併せて開催する展示資料館ロビー展示と9月の植物友の会作品展の2展示会、2ヶ月に1回友の会例会前の午前中に部会例会を開いている。また、部会員が栽培・育成した苗物の交換も行っている。5月のロビー展示期間の2日間は、入口に臨時売店を設け、販売も行った。部会活動は事務局の運営下ではなく自主的に運営されている。

まとめ

植物友の会は今年で発足40年となる。この間に多くの会員が植物公園に集い、当初の目的は達成できたと考えている。しかし近年は、会員数の減少が続いており、活動内容も固定化しているのが実態である。会員の年齢層も年々高齢化しており、例会などの活動の参加者も少なくなっている。このような中で、より活気のある会にするために、会員の意向を取り入れながら、一部の活動内容を見直すこととした。今後は、公民館等への広報をこれまで以上にいき、会員数の増加に繋げていきたいと考えている。

活動の様子 (写真1～5)



写真1. 講習会「木の実でバオバブを作ろう」



写真3. 第3回例会「ウツボカズラの取り木」



写真4. 第26回広島市植物公園植物友の会作品展



写真5. 植物友の会作品展 (山野草)



写真2. 第2回野外観察会 寂地峽



写真6. 秋のグリーンフェア クラフト体験